

ながむら・しんすけ 1981年、大阪府吹田市出身。2013年、岐阜薬科大学院博士課程を修了後、製薬会社に就職。17年9月に岐阜薬科大学薬理学研究室内の助教となり、22年9月から現職。薬剤師、博士(薬学)のほか、経営学修士(MBA)の資格を持つ。



## 目の血管異常原因発見 中村信介准教授

病気を治せ！

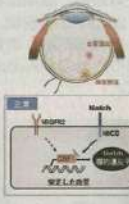
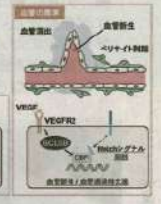
## 患者の「見る喜び」に貢献

眼球内の血管で「BCLB」というタンパク質が増える  
と、異常な血管新生や浮腫が生  
じることを発見した。目の血管  
を健康に保つためには、BCLB  
の発現量を抑えることが鍵  
だと分かり、新たな治療薬への  
貢献を目指す。

血管に異常をきたす原因のタ  
ンパク質としては「VEGF」  
が分かっていたが、目の病気の  
発症や進展の仕組みは複雑で、  
VEGF以外にも関与していると  
される。愛媛大などの共同研  
究ではBCLBという因子に  
着目。マウスやカンクイサルを  
使った実験で、血流が滞って  
いる箇所や新たに生まれた血管の  
近くでBCLBが強く発現す  
ることを明らかにした。発現を  
抑制する薬を投与すると、病的

な症状が抑えられた。  
血管から漏れ出した成分が視力  
を得るのに不可欠な黄斑にたま  
ることで起きる滲出型加齢黄斑  
変性や、血管が詰まってしまっ  
た網膜静脈閉塞症といった、視野  
欠損や視力の低下を招く病気の  
有効な治療法の開発につなが  
ることが期待される。

原英彰学長が中心となり、産  
学連携によるオープンイノベー  
ションを推進した成果といい、  
薬料本は「自分たちの強みを  
生かし、フットワーク軽く各種  
機関と連携する文化が根付いて  
いる」と誇る。



目の健康に貢献する中村准教授の研究のイメージ図

スマートフォンが普及して子どもから年寄りまで誰もが目を酷使する時代。だが、社会全般の「目に対する意識は低い」と感じている。目の健康を採つことは心身なご満たされた状態を目指す「ウェルビーイング」の向上に欠かせない。

目指すのは、失明や視覚障害の予防。「ずっと健康に見えるていた人が、病気で見えなくなってしまう」のリスクをシミュレーションは計り知れた。BCLBを標的とした治療法が実現すれば、より多くの患者さんの「見る喜び」に貢献できる。